

★1日(5月7日)午後の報告 討論要旨
(2時15分—5時35分) 座長 福島氏

田中: 核兵器禁止と軍縮をめぐりる問題

(1) 軍縮交渉の経緯
(別紙の表を参照のこと)

(2) 軍縮交渉の問題点

現在、米、ソから完全軍備撤廃の條約案が提出されている。これは戦後16年間の軍縮交渉の歴史の中で一番まともなものである。18カ国軍縮委から国連に報告を今年6月1日までに送ることになっている。東西の見解には多少の隔りがあるが次の問題点に特に留意する必要がある。

- ① 軍縮の第1段階に何を求めるかは決定的に重要である
- ② 査察についてはどれだけの軍備をもちいるかを調べることは必要であり、そのためには国内立入りもできなければならぬ。それには、第1段階で大巾に削減を要するのであれば合意に達しそうだ
- ③ 完全軍縮達成後どのようにして平和を

維持されるかを考之ねばならぬ、これは
新しい文明の課題である。

- ④ 核兵器の運搬手段が破壊され、外國
軍事基地が撤廃されれば、国内を入り
査察は認められるべきだ、この点
は今迄話し合う余地がある。

繼 討論

(大佛) 運搬手段の廃止は容易か

(田中) 監視機構ができて、やる気になればできる。
核弾頭より運搬手段は大きか
大きい

(豊三) 核弾頭をもっていることは、
ロケット基地、原子力潜水艦の存在は
わかる。

(朝永) ソ連が査察をいやがる理由は何か

(田中) 米は査察は盟約の前提だとい
ソ連は米は管理にばかり熱心
で減らす気があるか否かをうたがった。
ブラケット(みずす 1962年4月号)の主張
ももともである。

(朝永) 米が特に査察を主張する理由は?

(田中) 奇襲防止というが、奇襲能力があるのはむしろアメリカ側である。

(福島) 日経(1962-5-5)によれば「このネブ軍縮会議でゾーリン代表は4日「もし西側が核運搬手段全廃に依れば、ソ連は自国領土への100%査察を受諾する」と言明している。これは重要だ。

(坂田) バランスをとりながら減らしていくというが、バランスとは主観的問題だ。

(豊田) 第8回 Pugwash 会議でも均衡を保ちながら軍備を少しずつ減らすというのでは不安感を増大させるだろうという意見が出た。軍事力は総合戦力だから計量化できない。心理的問題が大きい。

(田中) 核兵器保有国はこれが必要兵器だと強調している。核兵器使用は他の兵器とくらべて国際道徳上行ら

差は余り、と議会の公聴会でも國務省
が明言している。

アメリカ今年三月三日のジュネーブ → 池田書簡でも
核兵器実験をおこなうことは米と自由世
界の安全性をより遠より下げてしま
うことは不道徳の至りだと言明した。

これらのことは、アメリカが
喜がふ細菌兵器禁止のジュネーブ議定書
を批准せず 1948年の genocide 條
約も批准していないと同様がある
ソ連はこれらを全部批准している。

これらの理由を調べて論じてくれることを
期待する

(各) 朝鮮戦争でアメリカが細菌兵器
を使ったという話があり 大分調べたが
証拠とみつけることはできなかった。

() 証拠がみつかりにくいことが細菌戦
の特長なのだ。

(以上)

(小沼記)